

第35回COMNAP（南極観測実施責任者評議会）年次総会等報告

極地研究所 中村卓司、橋田 元

COMNAPの年次総会と関連諸会議が、2023年6月23～29日の7日間、オーストラリアのホバートでハイブリッド形式により開催された。33のメンバー国の代表、5つのオブザーバー国、関係機関から合わせて250名（日本からは7名）が対面参加した。年次総会が6月27～29日に、また、これに先立ち、6月23～24日には第5回南極搜索救難（SAR: Search and Rescue）ワークショップ、6月25日にはSCAR/COMNAP合同南極医学医療専門家グループ会合（JEGHBM: Joint Expert Group Human Biology & Medicine）、6月26日には第20回COMNAPシンポジウム“Antarctic Innovations and Collaborations”「南極イノベーション&コラボレーション」が開催された。

SARワークショップでは事件事例紹介やシナリオに基づく机上訓練が行われ、極地研から橋田と青山が参加した。JEGHBM（参加登録86名）には、日本から議長の大野（天売島診療所）と大谷（鳥取大学）が参加し、南極におけるCOVID-19感染の現状と対策、鳥インフルエンザについて公開討論が行われ、非公開で医療活動の実績と緊急搬出、医学研究が議論された。COMNAPシンポジウムでは、口頭発表28件とポスター発表33件が行われ、中村が”Innovation developments in JARE activities by NIPR for its 50 years commitments”、橋田が”Logistical challenges on future upgrades of Syowa Station”の口頭発表を行った。

年次総会の概要は次のとおりである。

【メンバーシップ】

- ・ ポルトガル科学技術財団（Fundação para a Ciência e a Tecnologia: FCT）により申請されたポルトガルの新規加盟が審議され、承認された。

【地域別分科会】

- ・ 主として2023/2024年夏期シーズンに向けての情報交換が行われた。過去3シーズンのCOVID-19パンデミックの影響に加え、複数の国で老朽化したインフラの近代化プロジェクトが進行中であることから、各国では、上限に近い規模での活動となっている。6つの地域別分科会（南極半島、ロス海、東南極、ラルスマンヒルズ、ドロンイング・モードランド、内陸）において、内陸トラバース、航空機利用、海洋観測を通じた国際的な大規模プロジェクトの積極的な支援・調整を行った。

【COVID-19等】

- ・ 各国観測隊に向けて作成したCOVID-19対応ガイドラインは、各国の対策立案上、大変有用であった。この経験は、現在、専門家から指摘されている高病原性鳥インフルエンザ（HPAI H5N1）のリスクにも適用することができる。南極大陸におけるHPAI拡大の可能性に備え、特に南極半島域で活動する国々は積極的に取り組んでいる。

【専門家グループ会合】

- ・ 7つのテーマ別専門家グループ会合、「安全」、「航空」、「海洋プラットフォーム」、「環境保護」、「先端技術」、「教育・アウトリーチ、科学促進、訓練、多様性と包摂

性」、「南極医学医療」が開催された。COMNAPは、2011年以降、その規則においてジェンダーに中立的な表現を採用しており、これを踏まえ「尊重」と「安全」に焦点を当てた公平性・多様性・包摂性（EDI）に関する作業部会の新設を承認した。また、現在のCOMNAPのポリシーである“Welcoming the Power of Diversity within our Membership”とCOMNAP “Ambitions Framework”を推進すること、各国が南極の環境保護を主導すること、極海コードへの理解を進めること、合成航空燃料の検討を開始すること、諸活動で発生する騒音や粉塵の削減について検討を始めること、について支持した。なお、効率性タスクフォース、および地震・津波・火山災害の両プロジェクトは終了した。

【執行部体制と2023年次総会】

- 議長Antonio Quesada(スペイン:Executive Director of the Spanish Polar Committee)は任期を続行する。橋田(日本:国立極地研究所)およびPavel Kapler(チェコ:Czech Antarctic Research Programme)は副議長に再任され(それぞれ1年および2年)、Dragomir Mateev(ブルガリア:Bulgarian Antarctic Institute 南極研究所)が引き続き副議長を務める。Wendy Rubio(チリ:Chilean Antarctic Institute)およびSimon Troter(ニュージーランド:Antarctica New Zealand)が新たに副議長に選出された。Charlton Clark(オーストラリア:Australian Antarctic Division)は副委員長の任期を終了し、Patricia Ortúzar(アルゼンチン:National Antarctic Directorate Argentina)はATCM/CEP(環境保護委員会)議長に選出されたため、副委員長を辞任した。
- 次回の年次総会は2024年8月にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催される。